

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予察特殊報第4号を公表したので送付します。

平成20年度農作物病害虫発生予察特殊報第4号

平成20年12月26日
徳 島 県

- 1 病害虫名：クリバネアザミウマ (*Hercinothrips femoralis* (Reuter))
- 2 発生作物：デンドロビウムファレノプシス
- 3 発生地域：徳島市
- 4 発生面積：20m²
- 5 発生の経過状況

平成20年11月10日、徳島市の農家から、葉にカスリ状の食害痕が発生しているデンドロビウムファレノプシスの持ち込みがあった。本所で調査したところ、葉にはこれまで確認したことのない多数の黒褐色のアザミウマが寄生していた。このため、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未確認のクリバネアザミウマであることが判明した。

なお、本種は現時点において、当該圃場の本作物全体に発生しているものの、薬剤散布により生息密度は低下している。また、同圃場の栽培面積の過半を占める胡蝶蘭には発生していない。

国内では、インゲンマメ（東京都小笠原：平成11年）、ディフェンバキア（静岡県：平成13年）、ピーマン及びシシトウ（高知県：平成15年）、クワイ及びアガパンサス（神奈川県：平成15年）、ナス（岡山県：平成16年）、ポトス及びモンステラ（香川県：平成17年）、ミョウガ（埼玉県：平成18年）、カラー（千葉県：平成19年）、パッションフルーツ（鹿児島県：平成19年）で被害の報告がある。

- 6 形態

雌成虫の体色は褐色、体は網目状に強く彫刻され、体長は1.2～1.5mm。頭部は複眼と単眼の間が黄色～茶色、触角先端節は非常に細長い。前翅には中央と先端付近に2本の明瞭な褐色の帯がある。前脚の全てと中脚及び後脚の腿節以外は黄色である（第1図）。

幼虫の体色は黄色であるが、腹部背面は排泄物が固着して茶褐色に見え、尾端部に褐色で球状の排泄物を保有する場合も多い（第2図）。但し、花卉に寄生した場合は、体色及び排泄物はその色素に染まる（第3図）。

- 7 生態

本種は熱帯～温帯に分布している。国内においては、雄成虫の発生は確認できておらず、雌成虫のみで単為生殖する。24℃での発育期間は24日間である。

春～秋の間は連続的に発生し、成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の表面

に寄生して吸汁し，約10～15日後には土壌表面に落下して蛹になる。

8 被害の特徴等

本種は主に展開葉に寄生し，葉の表裏ともに吸汁加害する。口器で葉をなめるように食害するため，加害が進むとカスリ状の色抜け症状が葉全体に広がり，葉色は白っぽくなる（第4図）。また，虫体程度の大きさの黒っぽい排泄物が付着する。

花弁に寄生した場合は，口器で色素のある表面をなめるように吸汁加害するため，葉と同様白っぽくなる。

9 寄主植物

本種の寄主範囲は広く，海外ではコショウ科，イラクサ科，アカザ科，バラ科，サボテン科，ウコギ科，サクラソウ科，キョウチクトウ科，シソ科，ナス科，オオバコ科，キク科，イネ科，カヤツリグサ科，サトイモ科，アナナス科，ツククサ科，ユリ科，ヒガンバナ科，バショウ科，ラン科での寄生の報告がある。

10 防除上の注意等

- 1) 寄生のない健全な苗を使用する。
- 2) 本種は，苗等によって移動している可能性があるため，苗導入時に防除を徹底する。
- 3) 本種は寄主範囲が広く，雑草等でも繁殖する可能性があるため，圃場内部及び周辺の除草に努める。
- 4) 本種は各種殺虫剤に対する感受性が高いことが判明している。花き類のアザミウマ類に対して適用のある薬剤の中では，アセフェート水和剤及びマラソン乳剤が有効である（西東ら，2003）。
- 5) 薬剤は，7～10日間隔で3回程度連続散布を行うと防除効果が高い。



第1図 クリバネアザミウマ成虫



第2図 葉上のクリバネアザミウマ幼虫



第3図 花弁上のクリバネアザミウマ幼虫



第4図 クリバネアザミウマによる被害葉

引用文献 1) 西東 力・片山晴喜・杉山恵太郎（2003）：関東東山病害虫研究会報 50 : 147～150.